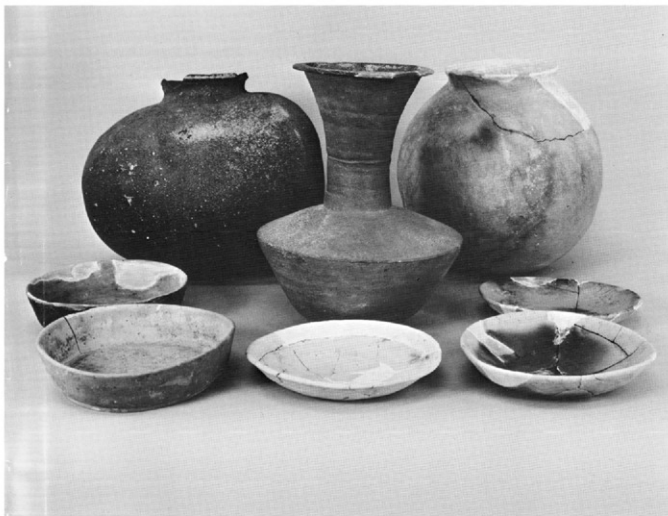


福岡市埋蔵文化財調査報告書第164集

麦野 B 遺跡群

— 第1次調査 —



1987

福岡市教育委員会



第1圖 周辺遺跡分布地図 (1/25,000)

- | | | | |
|--------------|-----------|-----------|------------|
| 1 麦野B遺跡群1次調査 | 2 麦野B遺跡群 | 3 麦野A遺跡群 | 4 麦野下古賀遺跡 |
| 5 井相田C遺跡 | 6 三筑遺跡 | 7 井尻遺跡群 | 8 詰問遺跡 |
| 9 板付遺跡 | 10 那珂久平遺跡 | 11 那珂君休遺跡 | 12 那珂深ツサ遺跡 |

序 文

福岡市では都市に人口が集中するにしたがい、快適になる反面多くの利便さや多くの問題が生じています。その中の一つに、駅周辺部での自転車、バイクの無秩序な放置が問題となっています。その解消をめざして麦野公園地内に、先年雑餉隈自転車駐車が設けられました。本書はその代替地の調査を実施した埋蔵文化財の調査記録です。

今回の調査では残念ながら多くの遺構、遺物はありませんでしたが、幸いにも奈良時代の井戸から完形の土器がまとまって出土しており、この時代の貴重な資料となりました。

本書が市民の皆様の文化財への理解と活用に役立てれば、幸甚に存じます。最後になりましたが、調査に際してご協力いただいた地元の方々を始め、多くの皆様に心からお礼申し上げます。

昭和62年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 佐藤善郎

例 言

1. この報告は斐野公園建設に伴い1985年11月に調査を実施した斐野B遺跡群の調査報告である。
2. 遺構、遺物の実測は主に松村が行い、一部山口満、池田光男の助力を得た。遺物撮影も松村が行った。
3. 本書の執筆、編集は松村が行った。
4. 出土遺物の注記記号はMGB一遺構番号とした。
5. 出土遺物は福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
6. 表紙写真は2号井戸出土の一括土器である。

本文目次

I 調査の経過と調査組織	
1) 調査の経過	1
2) 調査の組織	1
II 遺跡の位置と環境	2
III 遺構と遺物	2
1) 井戸	3
2) 溝状遺構	11

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)…表紙裏	第2図 遺跡周辺地形図(1/4,000)……(2)
第3図 遺構全体図……(3)	第4図 1号井戸実測図(1/40)……(4)
第5図 1号井戸出土白磁実測図……(4)	第6図 2号井戸実測図(1/60)……(5)
第7図 2号井戸出土土器実測図(1)……(6)	第8図 2号井戸出土土器実測図(2)……(7)
第9図 2号井戸出土土器実測図(3)……(8)	第10図 1号溝状遺構実測図……(10)
第11図 2号溝状遺構実測図……(10)	第12図 1.2号溝状遺構出土土器実測図 …(10)

I 調査の経過と調査組織

1) 調査の経過

本調査は麦野公園内に設けられた雑餉隈自転車駐車場建設に伴い、その代替公園造成工事に先行する緊急発掘調査である。

福岡市土木局街路課から埋蔵文化財課に当該地の埋蔵文化財の有無について依頼があった。福岡市文化財分布地図（東部Ⅰ）では周知の遺跡ではなかったが、麦野A、B遺跡群の間に位置しているので、試掘調査の必要がある旨、担当課に伝えた。

試掘調査は昭和59年4月20日に実施し、重機を用い計3本の試掘溝を設けた。その結果各トレンチから遺構、包含層があることが確認され、本調査を実施するのはこびとなった。

下表は調査に関する各種資料である。

遺跡調査番号	8520			遺跡略号	MGB
調査地籍	福岡市博多区麦野4丁目26-32			分布地図番号	12-A-3
開発面積	1056㎡	調査対象面積	1056㎡	調査実施面積	800㎡
調査期間	1985年10月1日～1985年11月10日			延べ	35日

2) 調査の組織

調査主体	福岡市教育委員会	教育長	佐藤善郎		
調査総括	埋蔵文化財課長	柳田純孝	試掘調査	埋蔵文化財第1係	山崎龍雄
	埋蔵文化財第1係長	折尾 学		// 2係	田中寿夫
調査庶務	埋蔵文化財第1係	松延好文	調査担当	埋蔵文化財第1係	松村道博



調査風景

II 遺跡の立地と環境

今回調査を実施した地点は麦野A、B遺跡群に挟まれた谷部に位置する。麦野遺跡群は御笠川の左岸に位置する洪積台地上にあり、西側は諸岡川により区画されている。この台地は第4紀層の花崗岩類が基盤となり、その上を八女粘土、鳥栖ローム層で覆われている。今回調査した地点では八女粘土層及びその二次堆積層に遺構は掘り込まれていた。

周辺の調査では麦野A遺跡群の麦野下古賀遺跡、南八幡遺跡群のトヲナシ遺跡がある。麦野下古賀遺跡では、掘立柱建物、竪穴遺構、井戸が検出され、15～16世紀の集落と考えられる。またトヲナシ遺跡では、6世紀後半～7世紀にかけての住居址と掘立柱建物、7世紀後半～8世紀前半の住居址、竪穴遺構がある。一方北方約2kmには板付遺跡を始め那珂君休、久平、深ツサ遺跡があり、水田址等が多く検出され、当時を偲ばせている。他に8世紀中葉に創建されたと考えられる高畑廃寺も北に1kmの位置にある。

III 遺構と出土遺物

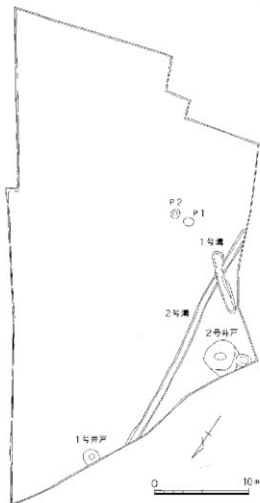
今回調査した地区は麦野A・B遺跡群に挟まれた所に位置するため、遺構の存在は極めて少なかった。7～8世紀の井戸1基、13世紀の井戸1基、近世の溝2基、ピット数基、他は近、現代の攪乱（イモ穴）であった。2号井戸の周辺部には8～9世紀の包含層が10数cm認められ、また遺

構のない部分では青灰色シルト層上面に足跡の痕跡が認められる所もあり水田と考えられるが、畦畔等の検出には至らなかった。

1) 井戸



第2図 遺跡周辺地形図（1/4000）



第3図 遺構全体図

1号井戸 (第4図)

調査区の北端に検出された。井戸と考えるには深さも浅く、素掘であることなどから疑問もあるが、湧水があることや土坑墓と考えられないので、一応井戸としてあつかう。西側の一部が調査区外にのびるが、形態はほぼ円形で径 1.6 ~ 1.7m を測る。深さは 1.0m を測る。断面はすり鉢状を示し、白色粘土と黒灰色砂層の境周辺の壁面は自然崩落している。床面は中央部が少し窪む。埋土は黒褐色土 ~ 茶褐色土で、壁、床面近くではそれに白色粘土、黒灰色砂が混入している。

出土土器 (第5図)

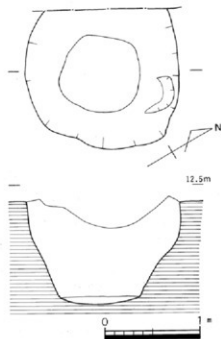
遺構検出面より少し下で白磁碗が1点だけ出土した。大きめの玉縁の小破片である。胎土は精選され白灰色を示し、釉はわずかに緑を帯びた白色である。口縁部から内弯しながら体、高台部となる通常の白磁碗である。

2号井戸 (第6図)

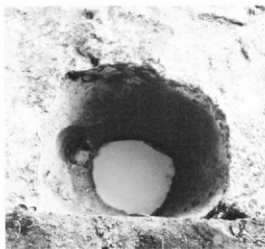
調査区の北西端に位置する素掘の大型井戸である。平面形はほぼ円形で径 3.5 ~ 3.9m を測る。深さは 2.13m を測る。床面は湧水のため黒灰色砂層が軟弱になり明確には把握できないが、ほぼ平で、中央部がわずかに丸味をもつ。壁面は底部からほぼ直線的に外へ開くが、



道跡全景（東より）



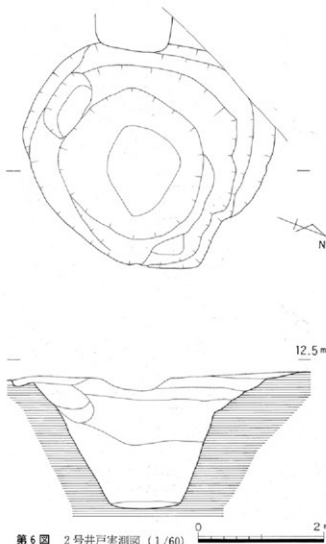
第4図 1号井戸実測図（1/40）



1号井戸



第5図 1号井戸出土白磁実測図（1/3）



第6図 2号井戸実測図 (1/60)

白色粘土と黒灰色砂層の境から傾斜がなだらかになる。この部分は、その上に白色あるいは黄白色の粘土を敷き詰め、かためている状況を示しているが、明瞭ではなく、あるいは、壁面の粘土の流出の可能性もある。覆土は上層が黒褐色、茶褐色で下層と壁面近くが白色～黄白色粘土のブロックと灰褐色砂層の混合土である。土器は上層の黒褐色土から土師器片が多く出土したのを始め、下層の混合土からは須恵器長頸壺、坏、横瓶、土師器の甕が一括して出土した。

出土土器 (第7～9図)

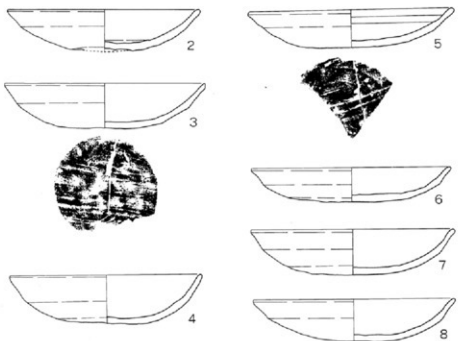
2～8は土師器杯である。ヘラ切りした丸底の底部から、口縁部へかけて内弯しながら立ち上る。体部中ほどで少し外反し、口縁部が肥厚するものもある。いずれも胎土は精選されており、色調は淡褐色ないし暗褐色を示



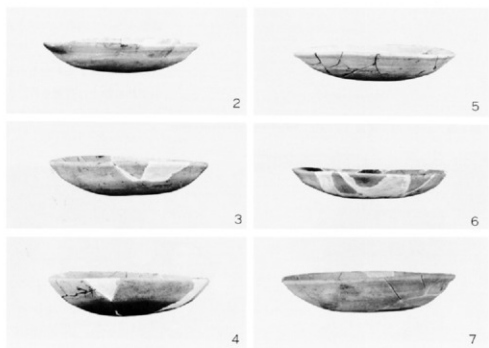
2号井戸



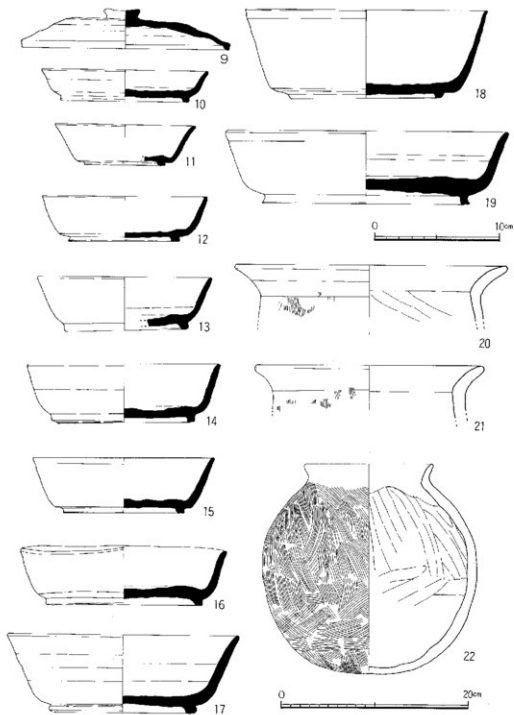
2号井戸土器出土状況



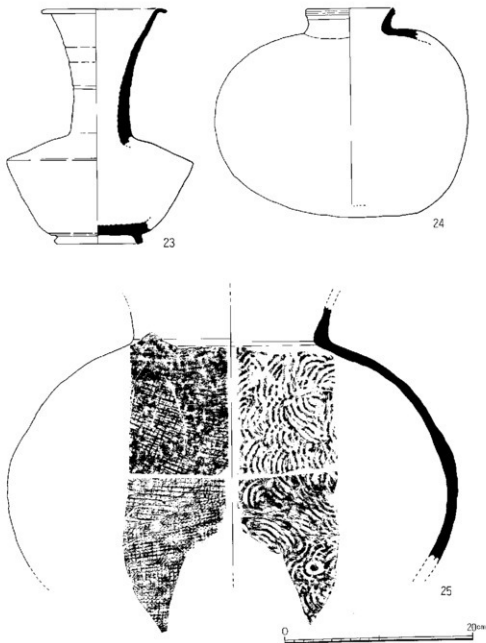
第7图 2号井戸出土土器実測图(1)



2号井戸出土土器

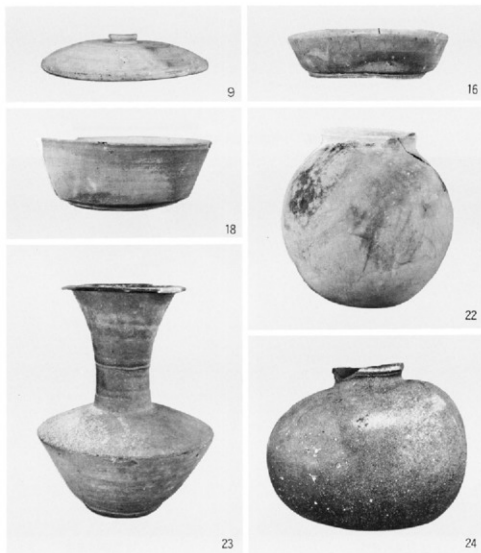


第8图 2号井戸出土土器実測図(2)



第9図 2号井戸出土土器実測図(3)

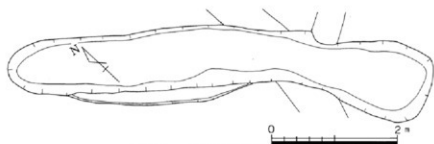
し、焼成は良好である。底部はヘラ切りの後ナデ調整を行い、3、5には板目状圧痕が残る。口径15.4cm~16.4cm、器高2.7~4.0cmを測る。いずれも黒褐色土層からの出土である。



2号井戸出土土器

9は須恵器の坏蓋である。天井部に中央が窪む平坦なつまみをもつ。口縁部はほぼ垂直に短く立ち上る。外面はヘラケズリの後粗いナデ調整を行う。10～19は高台付坏である。10～16は比較的小型である。高台部は短く外に開くものとほぼ直立するものがある。17～19は大型である。安定した高台部から口縁部に直線的に開き、端部は少し外反する。

20、21は土師器の壺の胴部から口縁部にかけての破片である。胴部の張りは少く、くの字に屈曲する口縁部となる。外面は縦方向の刷毛目、内面はヘラ削りである。22は土師器の壺でほぼ完形品である。口径13.6cm、器高22.4cm、胴部最大径は23.0cmを計る。胎土は砂粒を含むが



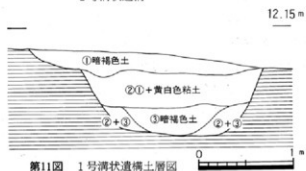
第10图 1号沟状遗構実測図



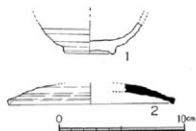
2号沟状遺構



1号沟状遺構



第11图 1号沟状遺構土層図



第12图 1、2号溝出土土器実測図

良好で、色調は淡褐色～灰褐色を呈し、外面は刷毛目調整、内面はヘラ削りを行う。口縁部は回転ナデ調整を施す。23～25は須恵器である。23は高台付の長頸壺である。高台部は八の字に外側に開き、胴部上位で大きく屈曲する。頸部は細長くラッパ状に開き、中位に一条の太い沈線を施す。口縁部は平坦になり、外側に少し下り、端部を丸く収める。26は横溝で楕円形の胴部に短い頸部がつく。胴部の右側面は同心円のカキ目を施す。25は人型で外に開く口縁部に長い球形の胴がつく。内面は青海波文、外面は格子目のタタキ文を施す。

2) 溝状遺構

1号溝状遺構 (第10図)

調査区の南端にある。最大幅1.21m、長さ6.76m、深さ45cmを測る。西側は一部平坦面をもち二段になる。断面は逆台形状である。覆土は1層が暗褐色土の混合土であり、一時的に埋められたものと考えられる。

出土土器 (第12図1)

李朝青磁の碗底部である。小さい高台部から内弯しながら胴部となる碗である。胎土は精選されており、色調は灰白色である。軸は底部が明灰色、他は緑灰色を示す。疊付部には4ヶ所に目跡が残る。

2号溝状遺構 (第3図)

南から北側へのびる溝で、幅 0.7m、現存長約52m深さ約0.20～0.30mを測る溝である。覆土は上層が黒褐色粘質土、下層が茶褐色粘質土で断面U定状をなす。台地は西から東へゆるやかに傾斜して、丁度台地縁に添うように走る。床の高さは南から北へ傾斜し、その高低差は約10cmを測る。

出土土器 (第12図2)

須恵器の坏蓋である。口径13.4、器高1.7cmを計る。胎土は砂粒を含まず、焼成も良好で色調は青灰色を呈する。調整は内外面とも回転ナデによる。

麦野 B 遺跡群

—第1次調査—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第164集

1987年3月31日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区大名2丁目10-29

印刷 株式会社 チューエツ

福岡市南区東比恵2丁目9番1号